



アサリの中なかにどうしてカニかいがいるの

カニかいが貝かいを、すみかすみかにしている

アサリやハマグリなどの二枚貝にまいがいの殻からをあけると、よく、小さいカニちいが入はいっていることがあります。このカニは、カクレガニとよばれる仲間なかまの、オオシロピンノか、カギツメピンノのどちらかです。このカニのメスは、貝かいの中なかにもぐりこむと、この中なかで、卵たまごを産うみ、卵たまごをかえし、一生いっしょうを貝かいの中なかですごします。貝かいの中なかで卵たまごからかえった幼生ようせいは、貝かいの出水管しゅつすいかんから海うみに出ていき、やがて、入水管にゅうすいかんから、ほかの貝かいの貝殻かいがらの中なかに入はいっていきます。

えさは、貝かいが食べ残たのこしたものがじゅうぶんあり、いつも、貝かいの殻からに守まもられていて安全あんぜんです。そのため、カニのこうらなどは弱よわくてぶよぶよし、目めもあまりよく見みえないようです。

いつカニかいは、貝かいに入はいるか

カニは、卵たまごからかえって、エビかたのような形の幼生ようせいの時期じきは、海うみの中なかを泳およぎまわります。幼生ようせいの時期じきをすぎると、脱皮だっぴをくりかえしたあと、変態へんたいしてカニかたちの形かたちになります。貝かいの中なかに入はいるのは、この変態へんたい後のカニかたちの時期じきといわれています。カクレガニのオスは、メスの3分の1ぶんぐらいしか小さい体からだをしていて、子孫しそんを残のこすためにだけ、メスが入はいっている貝かいに入はいっていきます。それ以外いがいのときは、オスが、どこでどんな生活せいかつをしているのか、わかっていません。(監修・杉浦 宏)

